

# March Newsletter

## College for International Cooperation and Development



### **Dear friends and future volunteers!**

今回のニュースレターは、2008年3月チームの Development Instructor (開発インストラクター。ボランティア。) たちについて紹介します。

最初に CICD での事前研修期間について簡単な説明をした後、2008年3月チームと指導の先生のコメントを紹介します。

そして最後に、現在、南アフリカのダーバンにあるケネック (DRH スクール) で、事後研修を行っている 2007年3月チームのラウラ・フェデリノによる、彼女のプロジェクト活動内容のレポートを紹介します。(省略版)

DI (Development Instructor) たちは、派遣されるプロジェクトにおいて、重要な役割を担っています。彼らはプログラムに参加し、アフリカとインドの人々と一緒に、異なる知識、技術、経験や強い意志を組み合わせています。しかし、農村の開発プロジェクトで活動するにあたっては、活動をするのに必要になる技術を学ばなければ、例え彼らが強い意志を持っていたとしても、無力な存在でしかありません。

そのため、CICD の 6 ヶ月間の事前研修は、開発プロジェクトで活躍するための良い準備期間ということができます。

インドの Humana People to People プロジェクトマネージャーであるエルマーは、次のようなことを書いています。

「知識は力です。そして、常にあるものです。行動は、知識が使用されて、初めてあらわれるものです。それは社会や未来において良いものとして、又は人々を損なうものとなりうる場合があります。

知識と行動から 1 つのツールを創ります。そして、このツールが人々と世界のために、何をしなければならぬのかを明らかにするのです。それは、急進的な行動です。長い目で人間の歴史を見て、それは一般の現象ではありません。しかし、多くの人々と今日の国際関係を見ていると、それはあなたが与えるようにできるようなものではありません。それは頻繁にあり、知識はいくつかによってもたれます。そして、知識のない行動は、何にもつながりません。」

CICD をはじめ DRH スクールでは、DMM (The Modern Determination of Methods) と呼ばれる学習方法を取り入れています。日本の高校/大学とは異なり、各個人が主体となって学習しなければなりません。

DMM とは、パソコンのデータベースのことです。各個人の学習レベル・生活環境に応じて、学習することが可能な学習方法です。DMM には、国際関係学、語学 (ポルトガル語)、プロジェクトスキル、歴史/地理、感染症/熱帯病、HIV/AIDS など、その他、多くの科目が用意されています。各科目はレベル 1-12 にわかれ、基礎知識から応用知識を取得することが可能です。



学生は各個人、この DMM の中から、自分が必要だと考える科目を学習します。自分の派遣国／派遣プロジェクトを中心に、自分が何を学習すべきかを考え、指導の先生と共に、自分で計画を立てて学習していく必要があります。

このような個人主体の学習方法は、あなたがボランティアとして開発プロジェクトで活動するための準備に必要なものです。なぜならば、プロジェクトでは、あなた自身が計画を立案／実行し、指導し、教える立場となるからです。したがって、あなたは、自分で物事を突き進め、解決し、取り組んでいく能力を身につけることが重要になります。

**「あなたは推進力そのものです。実行することで学び、経験によって学びます。変化とそのための準備をしておいて下さい。そして、より多くのものが変化するでしょう。」**

## **March Team 2008**

### **Yu Nakamura, 21 years old, form Japan**

私は日本人で、現在、21歳です。日本では大学生でした。現在、大学を休学してこのプログラムに参加しています。

大学では国際関係を専攻し、アフリカでのボランティア活動にすごく興味があります。また、私の先輩が2006年にCICDプログラムに参加し、彼女はCICDプログラムとモザンビークでの生活を教えてくれました。そのこともあり、私はCICDプログラムの参加を決めました。たとえ、ポルトガル語の学習をしなければならぬことを考えても、モザンビークに行きたいと考えています。

CICDの生活は、簡単ではありませんが、学習やチームメイトと一緒に過ごす生活は、とても面白いです。私は現在、一生懸命に勉強し、アフリカでボランティア活動をする日を楽しみに待っています。

### **Sandra Uwimana-Frund. From Swiss.**

私はスイス国籍を取得しましたが、祖国はルワンダです。スイスでは、食品雑貨店の女性販売員として働いていました。

私がCICDに来たのは、私にはアフリカで6ヶ月間のボランティア活動をするためのトレーニングや準備が、とてもいい機会だと考えたからです。これは私のルーツを見つけるきっかけです。私は、自分にとって本当の人生が何であるのかを忘れていました。現在の私の夢は、アフリカで子ども達と一緒に働くことです。その理由は、子ども達は未来だからです。個人的な理由としては、私はアフリカの子ども達にとっても影響されたことがあげられます。なぜなら、私はアフリカの貧しい家族に生まれ、私達は食べるものも飲むものも十分になかったからです。私の家族は亡くなりましたが、私は運良く養女になることができました。

そして、私は自分のチャンスについて考えました。私は、運がとてもよくない人々を助けるためにアフリカへ戻り、そこで私に何をすることができるのかを考えました。私の目標は、私のできる限りの、例えば、教科書、ベッド、ベッディング、医学的なお世話などを提供することによって、彼らを助けることです。そして、もし私がそれを好むのであれば、私はそれが自分の道であると感じるので、私は人道支援活動で働くためにアフリカに戻ることを望みます。アフリカは本当に私を呼んでいます。私は現在、自分がスイスで学んだ知識を共有するための、アフリカへ戻る準備ができています。



**Toko Oka, 24 years old, from Japan**

私は TTC プロジェクトで活動したいです。TTC (Teacher Training College) は、現地の小学校教員を養成する学校です。私は、全ての子どもが教育を受ける機会を持つべきだと強く信じています。もし、彼らが読み書きができれば、彼らは先生となることができるでしょう。もし、彼らが計算の仕方を知っていれば、彼らはお店を運営することができるでしょう。子どもの教育は 1 番、大切で開発途上国に必要な活動です。そのため、私は TTC で活動し、私の知識を共有したいと考えています。

**Laura Korne, 26 years old, from Latvia**

私はモザンビークの TTC プロジェクトで活動する予定です。世界のどこかでボランティア活動をするのは、長い間、私の心にあった考えです。時々、私は異なる可能性をチェックしました。そして、私が去年の 11 月に仕事をやめたとき、時間はこのプログラムに参加することを勧めたのでしょ—それはまた、おそらく起こるざるをえないものだったのかもしれませんが。なぜ、私がここにいるのか—それは、私がラトヴィアの少女から、彼女のマラウイでの Humana People to People のプロジェクト活動経験を知っていたからです。私は、政治学/行政の学位を取得しました。私の職歴は長くなかったですが、経験が豊富で、様々な点で学校生活がとても良いものでした。私は数年間、子供たちと家族の問題のために行政省で働いていました。私は幼児養子縁組の仕事に従事していました。それは、両親に捨てられ、家族を必要とする子ども達に対して、彼らが安全で調和した環境で育つことができる家族を探すことです。現在、私は CICD に在籍し、私はこのプログラムが簡単ではないということを知っています。私は新しい経験と知識を得るために、そして、私自身を挑戦するために、ここに来ました。そしてもちろん、アフリカで何かをするためにです。私は、あなたに、そして、私自身に幸運と忍耐さを願います。

**Rodrigo Lima, 24 years old, from Brazil**

私は農業の専門家で、ブラジルの Caritas で働いていました。私は、乾いた土壌のプログラムのコーディネーターでした。私は、アフリカで農業生態学活動をするために、そこへ行きたいです。なぜならば、アフリカで最大の問題は、栄養失調や栄養不良だからです。私は、DI として、モザンビークのビリビザで農業学校のプロジェクトで活動することを希望しています。私の大きな夢は、より良い世界で生活することです。

**Andrew, from Hungary**

私は、CICD に来る前はハンガリーに滞在し、勉強と仕事をしていました。私は商売を計画しており、同時に私は教師でもありました。それは楽しい仕事でした。私は多くの旅行をし、貧富の差と、その生活の違いを見ることが出来ました。私は自分の生活を変えることを決意し、人々を助けることにしました。

私はインドに行き、そこで、私がハンガリーで得た知識を役立てることを期待しています。そしてまた、私は CICD で、みんながより楽しい生活を送れることを信じています。



**Laura Salvatori , 32 years old. I come from Italy.**

昨年、ついに私は長い間、自分の心の中にあったアフリカでのボランティアをすることを決めました。

実際、私がそれをするには本当に確実でした。私は、この経験をやる瞬間が来たということを知っていました...そして、おそらくこれを踏まえたとき、私の美しくて幸せなローマでの生活を去ることは、大きな犠牲ではなかったでしょう！私は、ファッション会社の管理部で働いていました。私は、自分の仕事が本当に面白かったと言うことができ、私は退屈しませんでした！私には、自分のアパート、友人、家族がありました...そして、私の人生は、大丈夫でした...しかし、私には、常にこのアフリカでのボランティアをする考えがありました。そして、私は後悔をしたくありませんでした...

変化は私を決してこわがらせませんでした。私は、自分が全てに革命をもたらそうとするとき、私が本当に気分がよくて、異なる何かを知り、様々な人と異なる文化に出会うことを知っています！そして、私は 2007 年 10 月にガイアコースに参加しました。そして、現在、私は本当に自分の第 1 の目標が達成されたと言って満足です。私たち 3 月チームは、本当に陽気で、幸せであり、力とエネルギーでいっぱいです。

ガイアコースの間、私たちのモチベーションは浮き沈みしました。しかし、現在、私たちはここにおいて、私たちの夢が近くにあることを本当に感じています！そして、現在、私たちがここにいる理由を忘れることができません。私たちは夢への実現が、そう簡単でないことに気づいています。私たちは、それほど多くの挑戦と活動を行い、それは時々、手に負えないものです...。しかし、現在、私たちはそれを楽しんでいます！

私たちには異なる物語、文化、食物と、そして、おそらくこの経験（プログラム）をするための異なる理由があるでしょう。しかし、私たちはそれらを共有することにしました。（これからもっと多くのものを共有していくでしょう）私たちは同じ目的と共に、一緒にこの特別な時間を過ごしていくのです。

私はモザンビークのナカラ地区で、ストリートチルドレンのプロジェクトで活動したいです。このプロジェクトは 1991 年に、5 人の先生と 60 人の生徒たちとともに始められました。現在、このプロジェクトは約 400 人の子ども達に教養科目を教え、地域のコミュニティのために様々な活動とイベントを行っています。また、このプロジェクトは、教育を受ける機会のない若い人々に、教育を受けれる機会を与えています。彼らが必要としている教育は、普通の学校が与えるカリキュラムとは異なります。なぜならば、彼らは特別な生活環境と事情を持っているからです。

そしてまた、このプロジェクトは、少女たちの教育についても、積極的に取り組んでいます。特にそのプログラムの一環として、HIV/AIDS について全ての生徒たちとコミュニティの人々に情報を与えています。

私はこのプロジェクトが、生徒達に食べ物を与えることができなくなり、彼らがそこで生活することができなくなったことがとても残念です。もし私がこのプロジェクトで活動することができたら、私はこの点を改善したいです。私は、自分がこのプロジェクトに派遣されるか、他のチームメイトが派遣されるかわかりません。なぜならば、他のチームメイトもこのプロジェクトで活動することを希望しているからです。しかし、どちらにせよ、私たちは、どこのプロジェクトでも現地の人々と一緒に、何かをすることができるのです。

私はアフリカを待っています。そして、私はアフリカもまた、私を待っていると考えています。私やチームメイトのみんなは、アフリカ/インドへ行き、そこで現地の人々と一緒に活動するための準備ができています。

**István, 28 years old, from Hungary**

私は経済学者で、祖国で多国籍企業の財政的コントローラとして働いていました。私は CICD プログラムに参加することを決めました。なぜならば、世界では、どのような生活が営まれているかについて、私は自分で直接関わることによって知りたかったからです。そしてまた、私は自分の知識と技術を本当にそれを必要とする人々に貢献したかったからです。私は、モザンビークで TTC プロジェクトで働くことを希望しています。そして、6 ヶ月間、私はそこで自分が教えることができるのと同じくらい、学ぶことがあると考えています。

**Nataly Rincon, 27 years old, from Colombia**

私はコロンビアで、収入創出プロジェクトの活動をしていました。そのため、私は自分の経験を共有し、このプログラムを学びたいと考えています。私は、現在、ここにいてとても嬉しいです。そして、他のために何かをすることは、可能だと私は考えています。

**Mariana, 20 years old, from Sao Paulo - Brazil.**

私はただ、自分がアフリカでボランティア活動をするという、大きい願望とともにここに到着したといえます。現在、私はアフリカがより間近であるのを見ることができます。私はこれまで、多くの友人たちと出会い、異なる場所を知りました。私は、アフリカに到着するまでに、自分がどのように変わるのかが楽しみです。私は現在、勉強し、私のプロジェクトとそこに居る人々について考えています。彼らは、多くのことを私に教えてくれるでしょう。

**Kei Shibuya, 25 years old, from Japan.**

私は、6 年間、電子機械組立工場で働き、ローカルフットボールとソフトボールクラブに属しました。また、私は消防隊でも働いていました。だから、私には多くの友人と仲間がいます。

とにかく、私は、贅沢に育てられました。私は日本ではいつも、毎週、お酒を飲みました。何かを食べたいときは、何でも食べることができました。のどが渇いているときは、何でも飲むことができました。私は、常にきれいな水、安全な食物を食べていました。

時々、私はテレビでアフリカの現状を見ました。それは、目を見張るものでした。多くの子どもたちは、飢餓、貧困、エイズと環境破壊、その他の多くの問題によって亡くなっています。彼らには、問題の解決方法がありません。もちろん、私にはどうしたらよいか分かりません。しかし、私は何かをしたいです。そして同時に、私は何かをしなければならぬと考えています。なぜならば、私はあまりに多くの森の木が伐採され、この問題は、日本人の責任であることを知っているからです。

私は、本当に何かをしなければなりません、それと同時に何をすればいいのかがわかりません。私たちはみんな同じ人類であり、同じ地球という惑星で生活しています。そして、私はこの問題が公平ではないと考えています—私たちは、彼らを助けることができます。

現在の私の大きな問題は、言語です。そのため、私はもっと勉強をしなければなりません。私は自分の将来が不安です。私は常に、自分の英語とポルトガル語に関する勉強不足さを考えています。これは私の問題です。しかし、私は勉強し、挑戦することを続けます。

現在、私はモザンビークの TCE か、インドのグリーンポストのプロジェクトで活動することを考えています。





### Tomoyo Uragami, 24 years old, from Japan

私は、電機工場で働いていました。私は、本当に人々、動物、環境や地球を助けたいので、私はこのプログラムに参加しました。私は、自分が何をすればいいのかが、まだわかりません。しかし、私は何かをすることを挑戦することができます。私は、あまり良い英語とポルトガル語を話すことができず、特別な資格がありません。しかし、私たちは友人となり、お互いを助けることができます。それから、私たちは、一緒に成長することができます、それは素晴らしいことです!!

私は、HIV 感染と貧困を防止する活動を行いたいので、TCE またはグリーンポストのプロジェクトで活動したいです。

### Milan Stojiljkovic, 24 years old, from Swiss.

私が若かった頃、家族、学校の問題を抱えていました。私が仕事を選択しなければならなかったとき、私は自分が何をしたいかについてさえ、わかりませんでした...。私は 16 才で、人生からもっと多くのことを学びたかったです。しかし、残念なことに、私の父はむしろ、私ができるだけ早くお金を稼ぐことを望みました。私は 6 年間、郵便配達人として働きました。そして、私は自分自身に尋ねました。「これが私に与えられた人生なのだろうか?」「私の人生は、常に同じなのだろうか。ポストに郵便物を配布して、全てをもっている人々に出会います。しかし、他の人々はそれを嫌い、彼らの人生に対して、常に不満を持ち、批判します。」

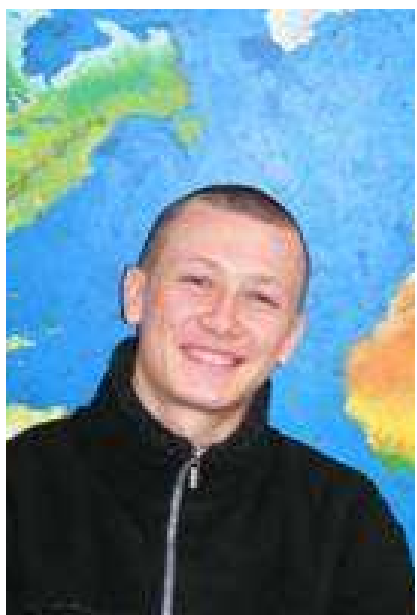
私は、天候が雪、雨、風であろうと寒かろうと、外で仕事をしていました。これは私をより強くしました。そして、例え自分の顔に風が吹きつけようが、私は自分の仕事を続けました。そして、ある日、私は自分の人生を変えることを決意しました。

私は、毎日が異なっていて欲しかったのです。私は、長い道と異なる見解を想像しました。私は自分の人生の中で、ただ生きるためだけに生きるのではなく、お金を遣うために生きるのではなく、私は人々を助け、全てに正義を貫き、目標に達したかったのです。食べ物は子ども達のためであり、ストリートで眠る人々がいる状況を、私は望みません。私はただ、自分の目を開き、毎日、泣く人々と、亡くなっていく子どもたちを見ました。そして、私は嘘の中で生きることをやめました。

### Betuca, 32 years old, from Brazil.

私は、ブラジルでコンピューターサイエンスを専門に働いていました。私は、地位やお金だけのために働く代わりに、重要な何かを見つけることを決意しました。私は約2年前、モザンビークのHumanaプロジェクトで活動していた友人から、CICDプログラムについて知りました。そして、私がそれを聞いた瞬間から、私はそれが自分が本当に探していたものであるということを実感しました。

ガイアコースやDI生活は、決して簡単なものではないと言えます。しかし、もちろん、私たち自身がアフリカ/インドに行くための経路は、簡単でありえませんか?だから、その将来のための準備ができるように、私たちはここに居るのです。私たちは大きな目標をもち、その道は長く、一生懸命に活動する必要があります。しかし、トルコのことわざにこうあります。「旅は道連れ世は情け」それは、私がここに来たということです。それを見つけるために、私は自分が選んだ道をたどる必要がありました。



## ..and a few words from one of the teachers!

### Asa Niklasson, 41 years old, from Sweden

オーサーは、CICDでDevelopment Instructorの先生の1人です。彼女は8年間、アンゴラのHumana People to Peopleのプロジェクトで働いていました。



#### 1. 学生はCICDでの事前研修期間中に、何を学ぶ必要があると思いますか？ 具体的な例を5つ挙げてください。

- －計画を立て、それを実行・評価し、行動を起こすこと。
- －自分自身を保つこと。
- －チームメイトと一緒に活動することができること。
- －人々を流動することができること。
- －挑戦することを恐れないこと。

#### 2. DMM学習がアフリカ/インドにおいて、ボランティア活動をするDevelopment Instructorのトレーニングに役立つポイントは何だと思いますか？

- －どのように自分で学ぶのか/どのように自分のための計画を立てるのかを学ぶことができる。
- －あなたは経験をもとに、あなたが行う仕事と行動を評価するので、あなたの経験を用いることができ、将来、それらを利用することができます。
- －私たちはDMMを通して、常に生徒と先生の間に多くの対話的なコミュニケーションをとることができる。

#### 3. あなたのアフリカでの経験を踏まえて、何か学生へのアドバイスがありますか？

- －アフリカでは、あなたの柔軟性が求められます。
- －私たちはみんな、異なります。ですので、あなたはどんな人にも寛容で理解を示す必要があります。これは、私がアフリカで私たちの文化の大きい違いから学んだことです。また、私がスウェーデンで高齢者と働いたときも、このことを実感しました。
- －チームで互い違いがおきたとき、それを解決することを恐れないこと。私は、アンゴラに滞在している間、このことを学びました。

#### 4. 学生がDMM学習を行うにあたって、彼らが経験する最も一般的な問題と困難は何だと思いますか？

- －学生自身が、自分の学習を管理する必要がある。
- －学生が具体的で完全な計画を立てる必要がある。
- －先生が常に学生の前に立って指導するのではなく、学生自らも、自分が何をすべきかを考えなければならぬ。

#### 5. CICDプログラムを進行するにあたって、学生は、常にポジティブで前向きである姿勢が大切です。先生として、あなたはどのように学生を支援していくことができると思いますか？

- －学生に対する私の態度がポジティブなことによって、学生に良い例を示します。それは、どのような状況でも行うべきことです。
- －私自身が積極的に学生と一緒に仕事に参加することで、それが不可能でないことを示します。
- －もし学生が自信がなく、それでも彼らがなんとかすることができるならば、私は常に彼らを励ます必要があります。

オーサーの記事はこちらから：

<http://www.cicd-volunteerinfrica.org/Article.asp?TxtID=771&SubMenuItemID=284&MenuItemID=20>



### Final Report of Laura Ferradino Child Aid – Nhamatanda Mozambique

#### 2007年9月～12月：モザンビークでの4ヶ月間

私がニャマタンダのチャイルド・エイドで働くことを決めたのは、このプロジェクトはとて「幅広いプロジェクト」だと考えたからです。私は、このプロジェクトが、私に異なる分野で働く機会を与えてくれるものだと考えていました。ここでの異なる分野とは、オフィスでの普通の仕事から、最も重要なことを学ぶことができるコミュニティでの興味深い仕事のことです。

私がここに到着して以来、私は自分のその考えが正しいことであると実感しました。ニャマタンダのチャイルド・エイドは、大きなプロジェクトです。もし、私がここに1年間滞在することができたとしても、本当によく活動地域と内容について十分に知ることはできないと私は思います。

最初の2ヶ月間、私はここは私の場所ではないと考えていました。そのため、私はとてもストレスを感じていました。もちろん、あなた達が6ヶ月間だけをもっているとき、あなたは全てを理解しなければなりません。そして今があります！しかし、現実はそのようにはなりません。私は、地域と私と一緒に働いていた人々とを知ることができました。そして、コミュニティで私の仕事をするために、1人で行動することができました。あなた達は、プロジェクトがDI達と一緒に、又はDI達なしで運営していることを理解しなければなりません。ここでは、ほとんどの人は私達のために待っていません。私達が働くか、または働かないか—それは、私達次第です。プロジェクトにとって、何が私達の仕事であるかを見つけることは、私達の仕事であり、それは私達次第です。

ニャマタンダのチャイルド・エイドは、2つのプログラムと一緒に働いています。1つはRITA (Reduced Impact and Transmission of HIV/AIDS) プログラム、もう1つはAGSP (Ambassadors Girls Scholarship Program) プログラムです。ちょうど今、私達は結核についてのプログラムを始めているところです。これは、とてもTCEと似ています。

私は特に、AGSPで働いています。1つのプロジェクトは、学校の孤児の女の子たちの立場を、奨学金を与えることやクラブで同じ時間を共有することによって、彼女達を支援することに焦点をあてています。

しかし、私はたいてい、オフィスで文章を作成する人や計画を発案する人を手伝っています。時には、コンピューターや会計の問題も手伝います。私達のプロジェクトは、食糧と衣類を配布しているので、私がプロジェクトを去る前に一度、AGSPのこの活動を見たいと思っています。

私は、地域をもっとよく知り、特に彼らの仕事をチェックするために、トレーナーと看護師達と一緒に周囲を見て回るつもりです。このようなプロジェクトでのDI達の主な仕事は、監督です。コミュニティにはボランティアの監督がいます。私達は、問題を解決しなければなりません。そして…もし、私達が問題を解決できなかったならば、プロジェクトリーダーに伝えます。プロジェクトリーダーは、ほとんどの時間がレポート作成と管理問題の仕事で忙しいため、DI達はコミュニティで鏡のような存在です。



*Continuation of Laura's report from pg 8*

CICDでの私の事前研修期間中、私は時々、家に帰る機会がありました。そのため、私は私の友達の間で Partnership を行いました。私は、家に帰る機会のあるあなた達の誰か1人が、同じことをすることをお勧めします。たとえ、それが小さな寄付でも、ここではとても重要で必要とされています。

私の小さな金額と一緒に、クリスマス前に、私はパンを作るための道具をあげました。コミュニティの人々は、今、それを作るためにとても真面目に働いています。彼らは、1月の終わりに、パンを生産するための準備をしました。（そしてピザも、私が教える予定です！）私のアイデアは、仕事のない5人の人達が収入とともにそこで働くことができ、コミュニティの孤児たちを支援することです。（彼らのために、彼らが本当に必要としているものを買うためや、病院へ行けるように）10人の弱っている孤児たちは、15歳までパン屋で昼食をとることができます。

ここでの生活の4ヵ月後、私は、ほとんどここが自分の家のように感じ、私はここにずっと滞在したい気持ちです。私は、いつも、コミュニティの人々から驚かされます。彼らはとても愛すべき存在です。そして、彼らは、私達の文化を知るために私達と一緒に過ごすことが好きです。たとえ、彼らの一般的な考え方が、「私達がここに休暇のために居る、そして白人はいつも裕福である」というものであってもです。

私は、自分のプロジェクトが大好きです。たとえ、私がいつも自分が十分なことをしていないと感じてもです。プロジェクトは、たくさんの改善を必要としています。プロジェクトをもっとよくするためには、新しい考えと厳しい監督が必要です。しかし、コミュニティでの影響は、すでにとても強いものです。HIVについての知識は広がっており、人々はどのようにして病人と孤児を世話するかを学んでいます。そしてまた、彼らは、どのようにして家庭菜園や養鶏農場のような収入創出活動を始めるのかについても学んでいます。

**クリスマス後：プロジェクトでの最後の2ヶ月間**

クリスマスの後に戻ったとき、少し異なっていました。私は、まだ自分の休暇と研究週間が2週間ありました。そして、私は、自分がやりたいことをやるだけの時間が、もうそんなになく感じていました。そしてまた、コミュニティで働くことは、私を毎日、悲しくしていました。なぜならば、どこに行っても病気の子ども達がいて、彼らを病院へ連れて行く可能性がない現実に、私はいつも直面していたからです。車もなく、仮に車があったとしても、私は彼らを病院に連れて行くことができません。なぜならば、それは持続的に行うことができないからです。彼らにお金を渡す選択肢はありません。なぜならば、私は、彼らが病院に行くことにお金を遣わないことがわかっているからです。そして、もう一度言いますが、それは持続的に行うことはできません。

コミュニティにいる人々は、彼ら自身をどのように世話をするかを学ばなければなりません。だから、それについての知識を与える私達の仕事は重要なのです。



*Continuation of Laura's report from pg 9*

例えば、マラリアはモザンビークにおいて、いまだにたくさんの人々の命を奪っています。地元の病院へ行き、マラリアのテストを受けて薬を得るのに必要なお金は、わずか 6 メティカイス（モザンビークの通貨。約 3 つのパンが買える）です。他の病院では、これより安いときもあります。

私は、自分の最後の時間を、AGSP の女の子達と一緒に学校で集中して費やしました。同時に、私はクリスマス前よりも働きました。私はついに、AGSP プログラムのための全ての資料を整理し、2 人のトレーナーにどのようにそれを使うのかを、コンピューターと一緒に教えました。

プロジェクトを去る前、私達は配布するための教材を入手しました。私は、計画の立案者のために、小さな手伝いをすることができました。しかし、私はそれがとてもいいことだと感じていました。私がプロジェクトに来たとき、私の監督者は新任で多くのことを知りませんでした。しかし、今、彼女はたくさん成長し、プロジェクトでの多くの問題を解決するでしょう。私とスタッフの関係は、とてもいいものでした。それは、彼女のおかげでもあります。彼女はスタッフを教育し、そして私達 DI を信じました。なぜならば、私達は異なる知識をもっており、彼らは私達からたくさんを学ぶことができるからです。

私は、自分のプロジェクトを去ることについて、あまり快く思いませんでした。しかし、私は彼らがいい仕事をすることを確信しています。

私の経験で言えることは、もしあなた達のうちの誰かがアフリカで何かを行いたい場合、それは 1 人でしてはなりません。あなたのプロジェクトを始める前に、誰かがリーダー的な存在の人と一緒に、生産の仕事を指導するのを確実にして下さい。そして、あなたのプロジェクトリーダーに話してください。

最後の時間、私は自分の時間が終わったことを感じていました。私はもうこれ以上、何かをすることはできない、多くのことが終わらずに去るように、私は後ろで何かをしていたのだ—それは、普通に感じるのだと私は思います。だから私は、AGSP の女の子達のクラブで、彼らと一緒に踊り、教えるために、もっともって時間を費やしたかったのだと思います。

6 ヶ月という期間は、「変化をもたらす」には短い時間です。6 ヶ月間はおそらく、ちょうどその場所を知るのには、十分な時間だと思います。それはただ、周囲を見渡し、状況を改善・向上するためのアイデアを思いつくのには十分です。それはただ、場所を知り、コミュニティの一部になるのに必要な時間です。それはただ、コミュニティの人々にとって、あなたを知るためには十分な時間です。そして、あなたが毎回、マーケットに行ったときに、あなたの名前を叫ぶのには十分な時間です。

私は、ニヤマタンダでの最後の数分間まで、することがたくさんありました。私はもちろん、去りたくないです。しかし、今は新しいものを見るときです。

私は、私達のできることをしました。たとえそれが十分でなかったとしても、私は今、そう感じています。私は、自分のプロジェクトで何かできたのか—私はそれがわかりません。しかし、この経験は私自身を成長させた—これは確かなことです。私はこの時間を、決して忘れることはありません。私は、自分が出会った全ての人々とプロジェクト以外の人々を私の心に保ち、彼らの全ては私に何かを教えてくれることでしよう。

KNEC, 14 March

Laura from Italy, March Team 2007

**College for International Co-operation and Development  
(CICD)  
@ Winestead Hall, Patrington  
Hull, HU12 0NP  
England  
Email: [cicd05@yahoo.co.jp](mailto:cicd05@yahoo.co.jp)**

**Contact Details:**  
Tel: +44 (0)7813 854 298  
+44 (0)1964 631 826  
Fax: +44 (0)1964 631 695  
**Websites:**  
[www.cicdvolunteer-japan.org.uk](http://www.cicdvolunteer-japan.org.uk)